

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401822		
法人名	社会福祉法人 楽々会		
事業所名	グループホーム楽苑 楽1棟		
所在地	〒859-1402 長崎県島原市有明町湯江乙1138		
自己評価作成日	平成28年8月31日	評価結果確定日	平成28年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosvoCd=4271401822-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成28年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全員が女性スタッフで笑顔の絶えない職場であり、きめ細やかなサービスを提供しています。開設当初から職員の退職者もなく、チームワークも良く取れています。立地的に自然に囲まれた環境の中、苑内にて犬や山羊を飼い、利用者の方との触れ合いにも役立っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に木彫りの象やベンチを置き、地域住民や保育園児が訪問しやすい環境を作ること、利用者が地域と繋がりがながら暮らし続けることができるように支援している。また、動物を飼育し、実のなる木を植え、木の暖かさやぬくもりを感じる家具を取り入れる事で、ゆっくりとくつろげる家庭的な雰囲気を作っている。運営推進会議に多彩なメンバーが集まり、運営推進会議を情報交換、施設への理解を深める場と捉え、活かすことで、地域との繋がりを広げ、施設のサービスの質の向上に繋がっている。勤続年数が6~12年の職員が9割を占め、職員が理念に沿って生き生きと楽しみながら支援している。職員が築いたチームワークの力が利用者の笑顔に繋がり、生きる力を育てている。今後、地域の拠点として期待される施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽苑は楽しい苑、楽しくなければ楽苑じゃない」という理念のもと、常に心掛け、全職員と理念を共有し取り組んでいる。	法人の理念を事業所の理念と位置づけ、玄関や事務所等に掲示している。採用時研修や職員会議で理念について考え、理念に沿った具体的な支援が、利用者一人ひとりの持つ力に応じて実践できるように、常にアイデアを出し合い、工夫しながら支援している。	常に立ち戻る根本的な考えとして理念を捉え、理念が職員に浸透し、日々の支援に活かされている。職員の利用者に対する深い思いを、今一度見詰め直し全職員で話し合い、事業所独自の理念を作り上げることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の慰問、中学生の福祉体験、婦人会との交流、地元消防団との消防訓練など日常的に交流している。	地元の利用者が多く、昔からの友人が立ち寄り、野菜等のお裾分けをする、施設への理解を深めるために地域の敬老会に参加する、保育園児が散歩の途中で気軽に遊びに来る等、地域住民と接点を持ち、常に地域との相互関係作りを行い、訪問しやすい環境を整えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の敬老会や文化祭等で、各地域自治会への慰問や、運営推進会議を通じて、理解や支援方法を地域の方に向け活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、会議の開催をし、サービス内容現状報告等の意見交換を行い、職員間でも共有しサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議を情報交換、施設への理解を深める場と捉え、市職員、自治会長、民生委員、町内の住職、利用者、家族等、多彩なメンバーで構成されている。運営推進会議時に、食事の試食会や実地指導結果報告、避難訓練を全参加者を交えて行い、施設の課題を話し合う等、双方向的な会議を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や、消防・救急訓練などにも参加して頂き、事業所の実情やサービスの取り組みなど伝え、協力関係を築くよう努めている。	市の職員と運営推進会議や、各種相談をする中で、信頼関係を構築し、緊急時の一時預かりやシェルターとして市から相談を受ける等、市との協働関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを全職員が理解している。事故等の危険性がある場合は、家族との相談のうえ、同意を得て方法・期間の取り決めを行い常に改善できるよう取り組んでいる。玄関の施錠も行っておらず、センサー音にて対応している。	入所時に「身体拘束の排除の理念及び方針」を説明している。状況変化がある度に家族に説明し同意を得ている。職員会議や日々の支援の中で、経過と身体拘束をしないための対策を常に話し合い、改善に向けた支援内容を職員間で共有し実践している。家族と、利用者の状況や支援内容について、常に話し合う事を大切にしている。また、職員会議でマニュアルに沿って内部研修も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待はあってはならないことを理解し、研修会も行っている。言葉や態度一つにしても注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学ぶ機会があり、必要性がある方には話し合い、活用できるよう支援している。現在2名権利擁護を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設を見学して頂いたり、利用者や家族の要望等、十分に伺い、説明をし理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望等を伺ったり玄関近くにアンケート・意見箱の設置をし外部へ表せる機会を設け、運営に反映させている。	家族の面会時に、利用者の居室でお茶を飲みながら、近況報告を交えて家族とゆっくりと話しをする事で意見や要望を言いやすい環境を作っている。家族の意見や要望は職員会議で話し合い、対応する等、家族の要望を運営に反映する仕組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎朝の申し送り、日常的に相談や意見を聞く場を設け、意見交換や話し合いなどにて、反映させている。	利用者の状況をよく把握している職員が、レクリエーションの提案をする、防犯対策や通報装置、連動装置の設置、点滴台等備品やAED講習会、運営推進会議の議題の提案、職員のローテーション等について職員会議で話し合い運営に反映している。これが職員の働く意欲を高め、勤続年数が6～12年の職員が9割を占めるチームワークに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や実績などを把握し、各自がやりがいや向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力・力量を把握し施設内研修はもちろんのこと、外部研修の参加を促すことにより、各自の意識向上につなげ、やりがいを持って働いていけるよう進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会にて、他事業所との交流の場を持ち、意見交換等行いサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安に思っていることや、要望等について話を伺い、本人が安心して生活できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人だけではなく、家族が不安なこと、要望等について話を伺い、相談し家族にも安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意見を重視し、今、必要としている支援を見極め、一番良いサービスができるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を見出し、役割を持って生活をしてもらうことで、介護されるだけではなく、一緒に生活をともにする関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、日常の様子を伝え、本人の状態をわかってもらいながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主治医の継続、理美容院の利用、各自治会の敬老会へ参加したり知人の方が気軽に遊びに来られたりと馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	利用者とゆっくり話しをする中で利用者のこだわりや大切にしている物を把握している。裁縫が好きな利用者に施設で使うぞうきんを縫って頂く、編み物を家族や親戚にプレゼントする、絵はがきを地元新聞に投稿し掲載される、居室でゆっくりとコーヒーを味わう、友人に電話をかける、親戚の家に訪問する等、社会との接点を持ちながら関係を継続するための支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関わり合いにも注意しながら、共に支えあって生活できるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くに入院された方にはお見舞いに伺ったり施設外で家族の方に会った時には現在の状態を伺うなど相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や話し合いの中で思いや希望、意向を伺い、困難な場合は、態度や言葉の流れの中で把握し、本人の意向に沿えるよう努めている。	日頃の会話の中から思いを聞き出したり、態度、行動で利用者の状況を把握している。利用者に合わせた声かけをし、意向に沿う支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から今までの生活歴や生活環境等を伺い、これからのサービス支援に役立て、今までの暮らしを維持できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状態、過ごし方、心身状態等、常に把握し、その人の生活リズムの把握に努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや願いなど生活して行く中で見出し、本人・家族と意見交換を行いながら、より良く暮らしていけるような課題を立て、介護計画を作成している。	家族の面会時や利用者に聞き取りを行っている。ケアマネージャーの他に計画担当者がおり日常観察から日々の記録に落とし、次のステップにいかせるよう他の職員とも話し合いをし、介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のカルテに日常の様子やケアの実践結果、気づきを記入し、申し送りや職員会議などで情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お風呂が好きな方には一番風呂や、外出が困難な方のために出張サービスの理容師に来て頂き散髪をもらうなど、その時々に対応したサービス支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園児や婦人会の慰問、地域の自治体や消防団との連携などにて、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を大切に、希望があれば相談のうえ、適切な医療が受けられるような病院受診を行っている。	入所前からのかかりつけ医を継続し、透析利用者の送迎支援も行っている。定期的な往診もあり24時間体制で支援が行われている。受診の都度、家族に報告し安心できる受診体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師連絡ノートも作成し、定期的に情報交換を行い、相談し、利用者が適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療ができ、早期退院ができるよう、お見舞いに伺ったり病院関係者との情報交換や相談に努め、退院後も安心して生活できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、日頃から家族との話し合いを行い、要望を伺いながら、できる範囲のことを説明し可能なかぎりの支援に取り組んでいる。	終末期の指針がある。家族とも同意書を交わし、AEDの設備も備えている。職員も救急救命講習等研修をしており、医師と職員が連携をし、安心して終末期の支援に取り組む体制が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より定期的に救急指導を受け訓練にて実践力を身に付けている。急変時も病院への連絡や応急処置ができるよう努めている。AED完備。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署立ち合いのもと避難・消火訓練の実施、日常的にも訓練を行い、全職員が対応できるよう身につけている。地元消防団とも連携体制を築いている。火災を未然に防ぐため、スプリンクラーの完備、防災カーテンの使用などの対策をしている。	法人内の施設や消防署や地域の消防団とも連携し避難訓練を行っている。火事、地震や水害など状況に合わせたマニュアルがあり、避難用具や通報連動装置も新規に設置している。非常食や寝具類も整えており、今後は避難場所としての対応も検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いを否定せず、尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。自室の入口も開けたままにせず、カーテンを閉めるなどプライバシーの確保に努めている。	入所時に個人情報に関する同意書を取り交わしている。一人ひとりの状況に合わせ、さりげなく声かけしたり、カーテンで目隠しプライバシーを守る環境作りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したりできるよう対応や言葉かけに努め、難聴の方には筆談やジェスチャーで自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、起床、就寝、食事時間など希望にそうように努めている。その日の体調や気分なども考慮し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張サービスの理容師に来て頂き、本人の希望に合った散髪をしてもらったり、季節ごとの洋服選びなどその人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の見た目や盛り付け、好みや量も考え、旬の食材や食器なども工夫して提供している。饅頭作りなど利用者と職員と一緒に楽しみながら手伝ってもらっている。	ユニットごとに季節の食材を活かし、食べやすく工夫した献立を考えている。誕生日には一緒に紅白饅頭を食べたり、利用者が提案する料理を職員と共に作ったり、食を楽しむよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にあわせ、食事、水分、糖分、減塩食など栄養バランスを考え提供している。飲み込みが悪い方にはミキサー食やとろみ食にして提供するなどその人に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあわせ歯磨きやうがいの介助を行い、入れ歯の方にはポリドントケアにて口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄ができるよう排泄パターンをつかみ、支援を行っている。	排泄チェックを行い、職員全員が排泄状態を把握し日常的な支援を行っている。定期的な声かけで不快な状態がなく、自然な排泄につなげるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて毎日の排便の有無を確認し、その人に応じた水分、食事量の工夫や運動、下剤の調整にて便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が可能であり、入浴前に本人に伺ったりと希望にそって支援している。体調不良時で入ることが難しい時でも、清拭や足湯などを行い支援している。	毎日入浴ができるよう設備を整えている。季節に合わせた入浴剤や皮膚の状態に合わせてボディソープ等工夫している。隣接した施設には機械浴があり、状況に合わせて安全に入浴ができる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自室には自分の使い慣れた備品を置いてもらったり、以前の生活習慣とかわらないような環境に整えてもらったりと安心して休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全て施設で管理を行っており、個人のお薬ファイルにて目的や用法、用量の理解をしている。薬の変更時には体調や症状の変化を見逃さず早期発見に努め支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で本人の力量を把握し役割を持って生活をしてもらうことで喜びのある日々が過ごせたり、楽しみごとを見つけることで気分転換などできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設でも花見や買い物に出かける機会をつくり、家族の面会時には本人と一緒に外出や苑外の散歩など家族と共に協力しながら出かけられるよう支援している。	地域の保育園の運動会や散歩に出かけたり、買い物等一緒に外出できる機会がある。家族と共に外出をしたり、定期的な透析や受診もおこなわれ日常的に外出する機会を多く作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族が行っているが、本人が買い物をした時は小遣いをお渡しし、金額への理解ができているか確認し、見守りながら自分で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が使える、本人自らも携帯電話を持たれたり、いつでも使用でき、手紙などの代筆や投函の手伝いも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の天井自体も高くしてあり、光のバランスや照明にも気をつかい、刺激がないよう配慮している。有線の設定もしており、季節にあった曲や、利用者の希望曲なども流している。リビングには苑外に咲いている花々を飾ったりと居心地良く過ごせるようにしている。	天井が高く自然な光が取り込めるような工夫をしている。木でできた椅子やテーブルなど置き、やさしい音楽が常に流れ精神的にも落ち着ける雰囲気がある。犬も飼っており利用者の癒しになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内の至る所にソファやイス、テーブルの設置をしており、リビング内には畳間もあり一人ひとりがリラックスできる場所を見つけ、自由な時間が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用している家具、備品類の持ち込みもでき、本人の使い慣れたものに囲まれ居心地よく過ごせるようにしている。	馴染みの家具や写真、装飾品が飾られている。個室の窓も大きく季節が感じられる。部屋の入り口には個別に置物をおき、一人ひとりの部屋が把握でき、迷わず部屋に移動ができる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には至る所に手すりを設置しており、自力にて歩行しやすいようにしている。自室のベッドにも起き上がりがしやすいよう手すりを設けたり本人が安全に自立して生活できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401822		
法人名	社会福祉法人楽々会		
事業所名	グループホーム楽苑 楽2棟		
所在地	〒859-1402 長崎県島原市有明町湯江乙1138番地		
自己評価作成日	平成28年8月31日	評価結果確定日	平成28年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosvoCd=4271401822-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が女性スタッフで、家庭でのお嫁さんや孫みたいな役割をホーム内で築けていると思う。施設立ち上げ当初からのスタッフがほぼ残っており、それぞれの特性を生かしたサービスが出来ています。
施設内にあるブルーベリーやいかり等を、利用者さんに収穫して頂き、ジャムを作ったり、飼っている山羊や犬と触れ合ったりと、穏やかな日々を過ごせる環境が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽苑は楽しいところ、楽しくなければ楽苑じゃない」という理念のもと、スタッフ全員が意識を持ちながら実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	婦人会の方々が慰問に来て下さったり、七夕には園児達が訪問してくれて利用者の皆さんと一緒に七夕飾りを作ったりと、地域との交流を心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年敬老の日に、各自治会を訪問して、催しをするなどし、地域貢献に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の利用者さんへのサービス提供の報告、試食会、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などを通して、日頃から連絡を取り、ケアサービスの日々の取り組みを伝えることにより協力関係を築けるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本、身体拘束は行わず、ケガの危険性があるなど、やむを得ないときは、家族と相談・説明の上、同意を得て行っている。玄関の施錠については、日中はしておらず、センサー音にて対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会の場を持ち、虐待について理解し、行っていない。また、言動、態度にも注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を学ぶ機会を持ち、必要性のある利用者がいつでも活用できるよう支援している。現在、権利擁護1名、成年後見制度1名利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、施設を見学してもらい、要望や不安、疑問点を尋ねたり、十分な説明を行い、理解、納得を図りながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議や家族の面会時に意見や要望を伺ったり、意見箱やアンケートの設置を行い、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議や毎朝のミーティング時に意見を聞いたり、日常的にも、その都度職員間で話し合いや意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの能力・努力・実績・勤務状況を把握し、各自がやりがいと向上心を持って働けるよう、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力を把握し、外部研修の機会を設けたり、小規模多機能にて期間を決めて業務にあたる等、違う場に身をおいてトレーニングにつなげたりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会、講習会などの場において意見交換を行い、サービスの質の向上につなげていけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が思いを表現できるよう、対応や言葉掛けに努め難聴の方には筆談やジェスチャーで自己決定できるよう働き掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱える問題点を見極め相談や提案・支援ができるよう、又、話せる間柄であるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を聞き、対する十分な説明を行い、サービス支援に役立ち最善の対応が出来るよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を見出し、生活に必要な役割を担ってもらう事で、協力関係を築いている。知恵を伝授してもらう事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を伝える。家族が観る本人の今と照らし合わせながら互いに相談し提案し本人を支える関係にある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、理美容院利用、自治会・敬老会への参加等多くに支援し推進している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	オセロ、ぬり絵、折り紙、風船バレー他、個性を活かした環境を提供し、対話の場を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時折連絡し、近況を伺ったり、会った時は気軽に話ができるよう努め、現時点の状況を把握するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人に合ったケアで生活の中で改善すべき事を見極め手助けし精神面・健康面の安定に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生き立ち、これまでのどのような生活をされていたか性格・習慣等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本日の一日の生活をカルテに記録し現状の健康面・精神面を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で本人の思い、家族の願い等職員と話を交えながら現状即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のカルテに生活の様子やケアの内容を記入し職員間で情報を共有し、介護計画の見直し、実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その時の生活状況や、家族の対応・状況にてニーズサービス提供、支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練に地元消防団にも参加してもらい連携体制もとれており、安全に暮らしていけるよう支援してる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し入所前からのかかりつけ医を大切に、必要に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師ノートを活用し、互いの情報交換が出来る。 体調に応じて適切に病院受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携を密にし、入院時治療に専念できるよう支援し、早期退院に向けて情報交換・相談に努め、家族・病院との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について事業所で出来る事を説明し、家族・病院と話し合い、家族の要望に出来るだけ応じていくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署より救急指導(AED・応急手当・対処法)の訓練を受けている。急変時、迅速に対処できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難・消火訓練を消防署立ち合いの下実施、地元消防団との連携も取っており、全職員緊急時に対応出来るよう日常的に避難訓練を行なっている。 火災等、未然に防ぐため、防災カーテン・防災カーペットを使用している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを大切にするため、本人の好みや、意識の持ち方、以前の生活環境を知り、それによって一人ひとりを尊重し配慮し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見や希望を見極めるために、言葉掛けや、対応に努め、難聴の方には筆談やジェスチャーで自分で決められるよう、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で過ごされる方、一日座って過ごされる方、TVをみて過ごされる方、本を見られる方、利用者一人ひとりのペースを大切に、レクレーションや催し物がある場合は声掛けにより無理強いせず参加して頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の上下をバランス良く着てもらい、本人の好みもふまえ、その人らしい身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の見た目や、盛り付け、簡単な下ごしらえの手伝い、一人ひとりできる、共同作業を行い、食の楽しさを知って頂き、季節ごとの提供にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事、普通食、粗刻み、超刻み、ミキサー食、汁物にはとろみを入れるなど、一人ひとりにあった食事の提供、支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の方にはポリドント、食後のうがい、歯のない方には口腔ケアでの消毒をし、一人で出来ない方は介助にて、一人ひとりに合わせ実行している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	朝・昼・夕(定期的に)積極的に、トイレの声掛けをし、トイレ習慣を定着させている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、毎日の排便の有無を確実に把握し、下剤等の調整にて便秘がないようにしている。 また、各自に応じた食事の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が可能であり、入浴前に本人に伺ったりと希望に合わせて支援している。 入浴できない場合は、足湯や清拭も行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の温度調整や日中に布団干しや、シーツ交換など安眠できる環境になるよう支援している。 不安がある時などは話を聞いてあげ、安心できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全て施設で管理しており、お薬ファイルにて用法・用量について、理解しており、症状により、服薬の支援をする。 また、医療機関の指示を受ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の興味や力量、または気分などを考慮しながら、集団レク・個人レクを楽しく出来るよう支援する。 洗濯物をたたんで頂いたり、新聞紙折りなどのお手伝いも積極的に参加して頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・幼稚園への運動会見学など出かける機会をつくり支援している。 家族との外出や苑外散歩など本人に負担のないよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は全て家族で行なっている。 必要なものは家族で用意して頂くか、施設で立て替え請求を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、いつでも電話をお貸しし利用可能。携帯電話をご本人が持たれている場合もある。手紙もすぐ出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木造平屋で木のぬくもりであふれており電気も明るすぎないようにしている。 有線もあり懐かしい曲などを聴いて楽しまれ、外は自然に囲まれ四季の変わりを楽しむことが出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内はどこからでも中庭を見る事ができ、リビングではテーブルにイスはもちろんソファ、マッサージチェア、健康器具等設置しまた畳間で休むことも出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣装ケース等持ち込みで、趣味のものや好みもあるので、個々の部屋の中は違い、身体の不自由さに応じて配置も変え、居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室以外の廊下等には手すりを設け歩行に役立てるようにしている。居室内もケガが無いようにベッドに手すり、コールも部屋に二ヶ所用意し安全に努めている。		